

新年、あけましておめでとうございます。

みなさんがこうして一堂に会し、第3学期がスタートすることに、感謝するとともに、先生も身が引き締まる思いです。

さて、小国中学校の生徒には「Only One Global One Next One」を体現できるような生徒になってほしいと4月から今日までずっと考えていました。

ですから、各学校行事や部活動などで本気になって取り組んでいる姿を見ては、「いいぞ、いいぞ」

とっていました。

さて、今年の正月に先生は、以前から知っている言葉だったんですが、再認識したことがあります。そして、これは小国中の生徒にぜひ伝えなければと思いました。

その言葉とは、

本気でするから大抵のことはできる

本気でするから何でも面白い

本気でしているから

誰かが助けてくれる

です。

今年の箱根駅伝は、昨年の雪辱を果たして10時間45分23秒で青山学院大学が総合優勝しました。特に往路では、各校ともエース級の選手を揃え、激戦が予想されていましたが、青山学院大学が新記録で優勝しています。

その中でも、4区を走った4年生吉田祐也選手のことを先生には心に残っています。

吉田選手は、今年初めてメンバーに選ばれ、最初で最後の箱根駅伝4区で区間新記録という金字塔を立てました。

吉田選手はチーム一の努力家ということを認められていました。しかし、これまでに箱根駅伝のエントリーメンバーには入るものの、2年生の時も3年生の時も11番目の選手ということで実際に走ることができなくて、悔しい思いをしていたそうです。

実は、吉田選手は、中学校も高校も無名選手で、青山学院に入学した時も、「下から数えて4番目の選手でしかなかった」と言っています。有力な後輩が次々と入部してくる中、それでもぶれずに努力を続けたのは、それこそが自分の持ち味であると分かっていたからとも言っています。

「自分に何ができるかと言えば努力することしかなくて。ないものをねだるよりも、あるものをうまく生かそうと思ってここまで来ました。今年に関して言えば、監督に止められるくらい練習も積めた。間違った方向には進んでいないという確信があったので、これまで黙々とやってこられたんだと思います」と言っています。

今年度のみなさんを見ていると、この「本気」ということばがキーワードだったかなと思います。

もう一度、

本気でするから大抵のことはできる

本気でするから何でも面白い

本気でしているから

誰かが助けてくれる

だめだ、できないと不平を言うのではなくて、吉田選手のように、自分の持っているものを生かして、それぞれの今するべきことに、真剣に取り組んでほしいと思います。

最後に、箱根駅伝のゴール風景の放送を見ていて、ああ、これだと思ったことがあります。優勝した青山学院だけでなく、他のチーム全てが、アンカーがゴールするのを全力で応援していました。すでに走り終わった選手も、最後の最後までチームのゴールを見届けようとする姿がありました。受検に似ています。早く結果が出る人もいます。しかし、まだ終わっていない人もいます。最後の一人がゴールするまで、チーム意識を持って応援するような、そんな ONLY ONE であってほしいと思います。

集大成の第3学期にしてください。

終わります。